

# 魔法のダイアリー 活動報告書

報告者氏名： 徳永 みき 所属： 鹿屋市立寿小学校 記録日： 平成31年 2月26日

## 【対象児の情報】

### ○学年

小学6年生

### ○障害と困難の内容

- ・ 特別支援（知的）学級在籍
- ・ 言いたい言葉がすぐに出てこないことが多く、会話では相手主導で話が進むことが多い。
- ・ 言葉だけよりも絵などイメージできるものがある方が理解しやすい。
- ・ これまで、調べたり、確認したりする方法で学習を進めてきている。
- ・ タブレットは、家で使用しており、五十音入力で、検索機能を使用できる。

## 【活動目的】

### ○当初のねらい

- I 予習で見通しをつけておくことで、安心して学習に参加する。
- II 認められる場面を設定することで、自己有用感を高める。
- III 調べて解決することで、自分自身の学びにつなげる。

### ○実施期間

平成30年5月～平成31年2月26日

### ○実施者

徳永 みき

### ○実施者と対象児の関係

英語専科教師（週2時間、外部講師として交流学級担任と共に授業を実施）

### ○共同研究者

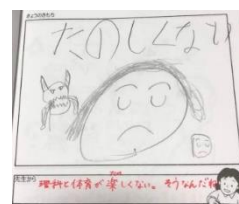
下名小学校 支援学級担任 佐々木 聖

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

#### <生活面>

- ・ 就寝時刻が遅く、登校時間は毎日9時頃。登校してからも学習に集中できないこともある。
- ・ 体格がよく、控えめな性格のため、困っている（わからない）ことに気づいてもらいにくい。気持ちのちもやもやを表現できないことがあるので、支援学級で、気持ちノートを毎日書き、担任とゆっくり話をする時間を設定している。
- ・ 交流学級の学習では、みんなの前で発表することが好きで、やりたいと思っているが、学年が上がるにつれ、その内容が正しいかどうか気になり、自信を持って発表することが少なくなってきた。



毎日の気持ちノートより

#### <学習面>

- ・ 小学校2年生内容の算数、3、4年生内容の国語を学習中。
- ・ 毎年同じ内容を繰り返し学習してきた経緯があり、できる満足感や達成感を味わう機会が少なく、学習への意欲が低迷しつつある。
- ・ 学習習慣が身につけておらず、目的意識を持って継続的に学習する姿勢ができていない。

#### <英語活動の場面>

- ・ 英語の授業は楽しみにしており、他児童とのコミュニケーション活動を楽しみたいと思っているが、なかなか自分から声をかけられない。

- ・コミュニケーション活動を図る場面では、表現することに自信がなく、ペアを作って会話する場面等で、一人ぼっちになることが多い。
- ・「わからない」を自分から伝えられず、何もしないまま時間が過ぎてしまうことがある。

### ○はじめに ～外国語科の授業について～

鹿屋市では、平成32年度から実施される新学習指導要領を先行実施しており、6年生は、週2時間の英語の授業を実施している。対象児童は、外国語科の授業を交流学級で受けており、これまでも英語の授業は受けてきているが、今年度から英語専科による授業がスタートした。

鹿屋市には、独自の指導計画があり、單元ごとに、新しい言語材料を用いて友達とのコミュニケーションゲームを楽しむことを通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことが目標に設定されている。また、単元の最後には、身近で簡単な事柄について、自分のことを伝え合う活動「My Book」の発表が設定されている。

### ○Aさんの外国語科における目標

- ・外国語の音声に慣れ親しむ。
- ・絵を手がかりに、自分の考えや気持ちなどを、友だちに伝えようとする。
- ・調べる手段を持つことで、安心して授業に参加する。

### ○活動の具体的内容

#### 1 予習で見通しをつけておくことで、安心して学習に参加する。

- ① 授業で学習する単語や文章に、英語専科が録音した音声を聞いて慣れ親しんでおく。



- ・単元の始まる前の週までに、英語専科が児童の在籍している学校に訪問した際、あらかじめ作っておいたフォームをエアドロップで本人のタブレットに転送し、音声単語帳を作成する。
- ・絵でイメージ化を図ることが得意なことを生かして、学習する単語の絵を描かせ、それを写真に撮り、タブレットに取り込ませ教材を完成させる。(量の多いときは、テキストの挿絵を使用)
- ・練習時間は、支援学級で朝と帰りの毎回5分間ずつ行うことにした。



- ② ゲームを通して、アルファベットに親しむ。

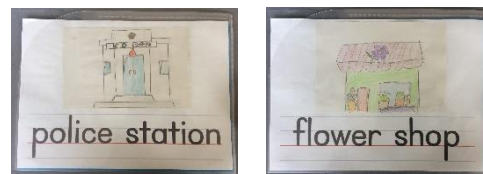
- ・6年生の目標は、アルファベットの大文字と小文字を見ないで書けるようになることが目標になっているが、Aさんの実態を考慮して、まずは大文字に親しませることからスタートするために、アプリを使うことにした。



実際のタブレット画面  
ゆびドリル ABC

2 認められる場面を設定することで、自己有用感を高める。

- ① A君の絵を教師が授業で使う。
- 絵が得意なことを生かし、Aさんの描いた絵を、教師が外国語の授業の中で、ピクチャーカードとして使用することで、本人の授業に対する意欲と、友だちから賞賛される場面を作ることにした。



Aさんの描いたピクチャーカード

- ② 英語係として単語練習をA君が行う。
- 外国人の先生に頼んで作った音声言語を流したり、A君が発音したりしながら、英語係として単語練習をする時間を設定する。



単語練習を行っている様子

3 調べて解決することで、自分自身の学びにつなげる。

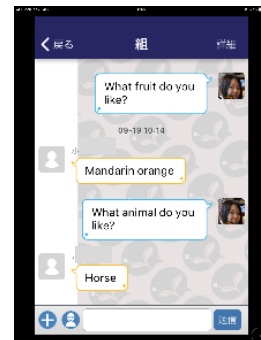
- ① 外国人の先生（ALT）に頼んで、自分で音声単語帳を作り、活用する。（2学期から実施）
- 1学期は、英語専科が録音していた音声単語帳を、A君も使用に慣れてきたので、ALTの先生に音声を録音してもらい、自分で音声単語帳を完成させることにした。
  - まずは、ALTの先生に、英語で何と尋ねればよいかGoogle翻訳でA君自身が調べる。
  - 音声を吹き込んでもらい、単語帳を完成させる。



音声入力を依頼している様子



- ② Google翻訳を使って、調べる。
- 「My book」で自分が伝えたい内容の英語は、google翻訳を用いて自分で調べる。
  - 目的意識を持たせるために、英語教師と英語でのメール交換をスタート。（2学期より）
- その中で、Google翻訳を用いて、自分で英文を調べさせた。



A君の「My book」 A君から送られてきたメール



○対象児の事後の変化

- 1 予習で見通しをつけておくことで、安心して学習に参加する。
- 2 認められる場面を設定することで、自己有用感を高める。

について

- ① 学習への意欲が見られるようになった。
- 朝、夕2回の支援学級における予習学習は習慣化。終わらないと帰らないくらい意欲的に取り組んでいた。また、支援学級に在籍する他児童（6年生男児）と自分たちでルールを決めて楽しそうに練習するようになった。
  - 外国語科の授業では、英語教師が、外国語の時間に使用するピクチャー



予習学習をしている様子

カードに、A君が書いた絵を使った授業の時、とてもうれしそうに授業に参加していた。また、他の児童が「すごい。」と賞賛したことで、自己肯定感が高まったようだ。その後の単語練習でも、発音のいいところをみんなの前で披露することになり、自信をつけていくことができた。



授業で使用したピクチャーカード

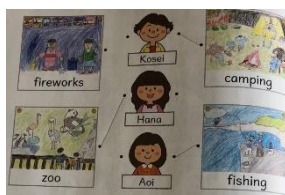
- 発音練習を担当することが、自分の得意を発表できる機会となり、その後の学習に自信を持てるようになってきた。
- 4月当初、ノートに落書きをしている姿を見かけたり、コミュニケーションゲームが始まると、ひとりぼっちになったりすることが多かったが、教師の方を見て意欲的に学習に参加することがほとんど毎時間となり、コミュニケーションゲームでも、友だちと笑顔でやり取りすることが多くなってきた。
- コミュニケーション活動では、自分から友だちに声をかけられるようになった。

② 英語の発音がよくなり、英語の聞き取りもよくなってきた。

- 道案内ゲームの時には、「右に曲がる」「左に曲がる」の英語の意味をきちんと理解して発言し、ペアの友だちとも会話が成り立っていた。また、事前学習の成果により、他児童と比較して、発音がとてもよかった。
- 「We can」のテキストを使った聞き取りのアクティビティでは、真剣に耳を傾け、正しく答えることができていた。
- 授業中、英単語を答える問題に手を挙げて答えることができた。
- 単元最後の「My book」の発表では、自分のことを、英文を使って発表することができた。



道案内ゲームをしている様子



Aさんのテキスト

I went to Aeon.  
I enjoyed watching fire trucks.  
I ate hamburger.  
It was fun.



My Book 発表の様子

③ 調べて解決することで、自分自身の学びにつなげる。 について

自分自身で解決することができるようになってきた。

- ALTの先生に音声録音を依頼する時、英語専科は下名小学校に訪問していなかった。当日は、音声録音を依頼しに行く前に、自分でGoogle翻訳を用いて、英語で何と頼めばよいか、検索していたという話である。確かに、A君のタブレットを確認してみると「タブレットの英語を入れてください。」の検索の跡が残っていた。職員室にいるALTの先生に、声をかけるまでは、少し時間がかかったものの、タブレットを手渡し、この訳を見せ、無事、音声録音を行うことができたということである。右図①



A君のGoogle翻訳の跡

- その後、ALTの先生の音声で作成した音声単語帳で予習学習をするようになり、より一層、発音がよくなった。英語の時間に英語係として、みんなの前で、単語の復習をスタートさせた時も、これがあるおかげで確認ができ、安心して取り組むことができた。

- また、授業中、言い方がわからなくなった時には、自分で調べて確認することができた。確認できる方法があることで、授業にも安心して参加できるようになったようである。
- 英語専科との英語でのメール交換では、最初は、“Good morning”などのシンプルなものからスタートしたが、Google 翻訳の使用方法はすぐにマスターし、いつの間にか、自分で返事を書いていると、支援学級担任から聞いた。



授業中、単語の確認をしている様子



A君から送られてきたメール

前ページの「A君のGoogle 翻訳の跡」の②で、検索したものを、メールに添付したものが、左図③である。翻訳機能を使って、自分でメールを理解し、返事を書くことができたことが覗える。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○主観的気づきとエビデンス

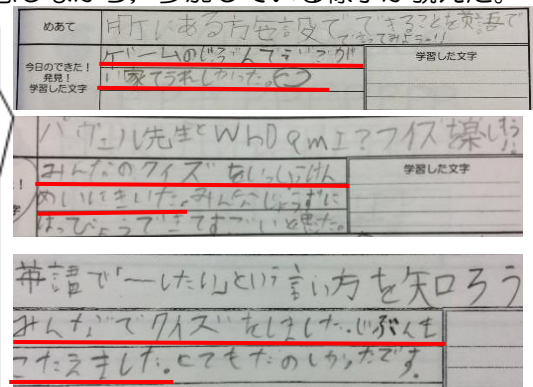
#### 1 学習意欲の向上 ～授業に笑顔で参加。積極的に取り組むように～

- 支援学級の英語の予習学習が習慣化したことで、他教科の学習もリズムよく流していけるようになってきた。英語は得意という自信から、支援学級内でも他の児童と英語のクイズを楽しんだり、一緒に発音練習をしたりするコミュニケーションの場面が多く見られるようになってきた。
- 英語の時間、A君の振り返りカードには「楽しかった」だけではなく、自分のできるようになったことが具体的に書かれることが多くなった。また、その授業の感想を、積極的に手を挙げて発表することができるようになったことから、授業に達成感を感じながら、参加している様子が覗えた。



コミュニケーション活動を  
楽しむ様子

- ゲームでじぶんでえいごが家て(言えて)うれしかった。
- みんなのクイズをいっしょうけんめいきいた。
- みんなでクイズをしました。じぶんもこたえました。

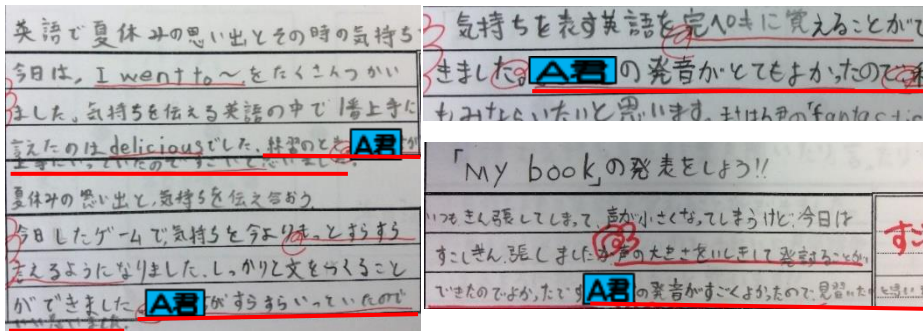


小学校における英語の授業では、音声を中心とした学習が主となっており、初めて聞く言語材料を用いて、友だちとのコミュニケーション活動を行う学習展開になっている。中学校での文字学習につなげていくことを考えると、音声に慣れ親しませることは、小学校段階でとても大事である。しかし、聞いてすぐに理解することが苦手なA君にとって、新しく学んだことをすぐ授業で活用するのは苦手だし自信がない。事前に予習することで、授業に安心して参加することができ、それが学習意欲に結びついたと考えている。

#### 2 発音・聞き取りの学習定着 ～友だちが驚くほどの発音のよさ。英語の聞き取りもできるように～

- 毎時間、授業の終わりに書かせている「振り返りカード」には、交流学級の友だちからA君のよか

ったところが記されるようになった。発音がよくなったことや、スムーズに英語が使えるようになったことは、他の児童からも認められるほどになったということがわかる。また、こうして褒められることが、本人の自信にもつながったと思っている。

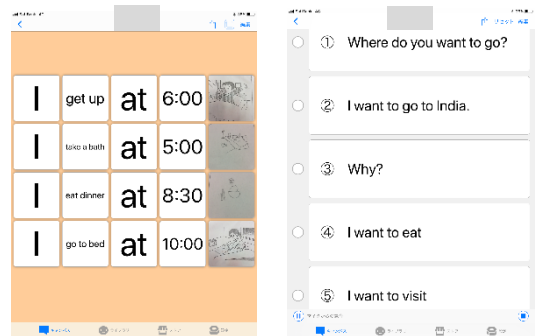


・A君が上手にいていたので、すごいと思いました。  
 ・A君の発音がすごくよかったので見習いたいと思いました。  
 ・A君がすらすら言っていたので、いいと思いました。

タブレットの活用は、単語練習、とくに発音練習に特に効果を発揮することがわかった。友だちも認めるほど発音がよくなり、スムーズに英語を言うことができるようになったのは、音声を使用できるタブレットを用いた学習だったからだと思う。また、A君が単語を覚える時、純粋に音からの情報を手がかりに記憶に結びつけて覚えていったことも、発音のよさへと結びついたと考える。英語に関しては、どの子どもスタートラインが同じ。ということは、予備知識に左右されないで、知的障がいのある児童でも、やり方次第では、活躍できる教科になりうる。今回の取り組みは、本人の自己肯定感を高める方法としてだけでなく、学習効果を得る方法として、とても有効な方法だったと考える。

### 3 自分自身で解決 ～調べて解決が自分自身でできるようになってきた～

・A君在籍の学校への英語専科教師の訪問日数は、週2日である。またALTの先生の訪問は、2週間に1日のペースで、英語専科教師の訪問日と重なるとは限らないし、回数も少ない。そこで通常は、新出単語を英語専科の音声で録音したものをA君のタブレットに転送する方法を取っていた。しかし、いくつかの単語帳が、ALTの先生の音声に入れ替わっていることに後から気づいた。ALTの先生に一度頼み行くことができてからは、A君自身でお願いに行くことができるようになったようである。



ALTの先生の音声に変換されていた単語帳

・英語専科教師との英語でのメールのやり取りは、順調にやり方を覚えて進めていくことができた。しかし、2学期後半、生活管理不足による体調不良で欠席が続き、英語の授業に参加できない日々が続いた。支援学級で行っていた英語の予習授業や英語専科教師とのメール交換も実践できなかったため、久しぶりの授業では、表情の晴れない様子も見られた。そこでタブレットを自宅に持ち帰らせ、家でも取り組ませる時間を確保することにした。また、久しぶりの登校でも授業に参加しやすいように、身の回りで見つけた英語の写真を取り取りするという方法で、英語専科教師とのメール交換も継続することにした。英語が大好きなA君。このような中、休みの連絡がきたにも関わらず、英語の時間に間に合わせて登校し授業に参加した日もあった。その後、また登校できる日が増えてきて、3学期は登校できる日が多くなっている。



A君からのメール

- A君が欠席で、英語専科教師と会えなかった日も、メールで授業内容をお互いに確認することで、次の授業に遅れが出ないようにすることができた。My Book で、将来の夢についてのスピーチを自分で作る単元があったが、A君自身がGoogle翻訳で英作したものを、ByTalkで送ってもらうことで、それを英語専科教師がチェックすることができた。そして、英語専科教師が発音を音声で送ることで、直接会うことができなかつた時も、英語のスピーチ練習を行うことができた。



Hello  
I want to be  
carpenter.  
My father is  
carpenter.  
I want to  
make plenty  
of house. I  
like to make  
things.

A君の書いた英作文



A君からの英作文メール → 英語専科教師からの発音音声メール → A君からの「練習したよ」メール

A君は、来年度、中学校へと進学する。自立の一步として、代替手段を活用できる力は必要である。英語という教科を学力としてつけていく指導と同時に、如何にして英語を活用していくのか、英語をどのように手段として用いていくのかの能力を高めていくことは、A君にとってとても大事になっていく。調べられれば情報が得られるということは、とても大きな力になる。今回自分で調べることで、英語でも誰かとコミュニケーションすることができたという経験は、これからの彼の生活にとって、とても意味のある経験になったのではないかと考える。

## ○最後に

外部講師として訪問する小学校での実践ということで、A君との距離を縮めるのに、少し時間がかかった。しかし、もともと英語好きでお互いのよさを認め合える雰囲気的交流学級の子も達のおかげで、A君を含め全児童が安心して授業参加できる環境があったことが、今回の実践には大きな影響を与えてくれたと思っている。

A君にとっては、今回の取り組みで、支援学級や交流学級の友だち、ALTの先生、英語専科教師、と交流する人たちが広がっていったことは、登校することや学習することへの意欲へつながっていたと交流学級担任は話している。

事前学習で安心して授業参加できることや調べて学ぶ学習スタイルは、A君の学び方に合っていることを下名小学校の先生も認めてくださっている。また、先日、中学校の先生との引き継ぎを行い、これから、このような学び方を中学校に進学後も、他教科を含め、繋げていっていただくことを確認した。